

# 2015 年度 名古屋大学 前期 日本史

## 問題 I 古代の軍事・中世の武士

出題範囲	古代～中世の社会史
難易度	★★★☆☆
所要時間	25 分
傾向と対策	第 1 問は、白村江の戦いと南北朝の動乱という 2 つの戦争をテーマに、それぞれの時代の軍制や社会の様子を問う問題であった。記述量は多いものの、問われている内容は基本的なものばかりなので、各用語の定義・内容を丁寧に記述したい。また、役職名やその仕事内容などは時代によって変化することもあるので、教科書をよく読み、周辺知識とともに整理して覚えていくとよいだろう。

### 《この解説の使い方》

**黒太字** …この試験で合格点を取るために必要な頻出語句を黒太字で記載した

**赤字** …解答に関連する語句・内容および知識としておさえておきたい内容を赤字で記載した

**青字** …この試験で合格点を取るためにおさえておきたい年号を青字で記載した

### 解答

A

問 1 倭は百濟再興支援のため大軍を送ったが、唐・新羅連合軍に敗れた。これを受け対馬などに防人・烽を、大宰府には水城を、西日本には朝鮮式山城を築くなど防衛強化策がとられた。また、庚午年籍作成など中央集権化が進められた。(105 字)

問 2 国造は大王に舍人・采女として子女を出仕させ、地元の特産物を納め、屯倉や名代・子代の部を管理し軍事活動も行うことでヤマト王権に奉仕した。律令制下では郡司に任命され、国司のもとで実地支配を行った。(96 字)

問 3 (制度) 防人

(動員のしくみ) 正丁 3～4 人に 1 人の割合で徴兵が行われ、諸国の軍団で訓練を受けたあと、衛士として都の警備をするか、おもに東国の兵士が防人として九州沿岸を護衛した。(73 字)

問 4 九州の武士団が動員された。(13 字)

B

問 5 鎌倉時代後期から、惣領制の解体により、分割相続から嫡子の単独相続へ変化していった。その結果、各地で武士団内の対立が生まれ、南北朝動乱に際して南朝側・北朝側に分かれて争ったため、動乱が全国化・長期化した。(101 字)

## 問 6 (法) 半済令

(影響) 1 国内の荘園・公領の半分の年貢徴収を認められた守護は、この権限を用いて荘園・公領を侵略し、国内の武士に分配して彼らを統制するようになった。(69 字)

問 7 国人とよばれる地域在住の武士は、国人一揆を結んで紛争の相互解決や農民支配を自主的に行い、しばしば守護支配に抵抗した。(58 字)

## 問 8 (直轄軍) 奉公衆

(役割) 諸国に散在する御料所の管理を行うとともに、守護の動きを監視した。(32 字)

## A

## 問 1 難易度：★★★★☆

## 解答例

倭は百済再興支援のため大軍を送ったが、唐・新羅連合軍に敗れた。これを受け対馬などに防人・烽を、大宰府には水城を、西日本には朝鮮式山城を築くなど防衛強化策がとられた。また、庚午年籍作成など中央集権化が進められた。(105 字)

## 設問の要求

字数 14.5cm×3 行

主題 白村江の戦いの経緯と結果

戦後の天智天皇期の防衛体制

## 解説

下線部①の「百済を救う役」である白村江の戦いの内容とその影響および戦後の天智天皇(位 668～671)期の防衛体制が問われている。

660 年に百済は唐と新羅によって滅ぼされたが、一部の貴族などが抵抗を続け復興を目指した。倭は百済を支援するため朝鮮半島に大軍を送ったが、663 年の白村江の戦いで唐・新羅連合軍に大敗し、倭への攻撃の可能性に備えて国防を固める必要に迫られた。664 年に対馬・壱岐・筑紫に防人と烽(辺境地での異変を都に急報する設備・合図)を置き、大宰府周辺には水城や大野城・基肆城が築かれた。また、対馬から大和にかけて各地に朝鮮式山城が建設され、都が近江大津宮に移された。さらなる防衛強化のため、天智天皇は 670 年に最初の戸籍である庚午年籍を作成して徴税・徴兵の基礎を固め、中央集権国家の確立を目指した。

以上の内容をまとめて解答しよう。

## 問 2 難易度：★★★★☆

## 解答例

国造は大王に舎人・采女として子女を出仕させ、地元の特産物を納め、屯倉や名代・子代の部を管理し軍事活動も行うことでヤマト王権に奉仕した。律令制下では郡司に任命され、国司のもとで実地支配を行った。(96 字)

**設問の要求**

字数 14.5cm×3 行

主題 ヤマト王権に奉仕した国造の職務

国造をはじめとした地方の有力豪族が律令体制に組み込まれた過程

**解説**

氏姓制度における国造の職務と、律令制施行後のその性格の変化が問われている。国造の仕事内容に関しては細かい知識が必要かもしれないが、ひとつひとつ丁寧に書き出したい。

国造は地方豪族としてその地域の支配を認められた。その見返りとして、王権に舎人・采女として自らの子女を出仕させ、地方の特産品を貢進した。また、大王の直轄領である屯倉や、大王の直属奴隷である名代・子代の部を管理した。さらに、国家の軍事行動にも参加してヤマト政権に奉仕した。

律令制が敷かれると、国造は郡司として中央政府に従った。郡司は中央から派遣された国司のもとで郡内を支配したが、伝統的な支配力を背景に、徴税や裁判といった実際の地域支配を担った。

以上の内容をまとめて解答しよう。

**問3 難易度：★★★★☆****解答例**

(制度) 防人

(動員のしくみ) 正丁 3~4 人に 1 人の割合で徴兵が行われ、諸国の軍団で訓練を受けたあと、衛士として都の警備をするか、おもに東国の兵士が防人として九州沿岸を護衛した。(73 字)

**設問の要求**

字数 14.5cm×2 行

主題 東国の軍事動員のしくみ

条件 8 世紀

東国の軍事動員制度の名称を明示する

**解説**

古代の軍事面を支えた、東国の軍事制度について問う問題である。

まず、古代の軍事制度として覚えておきたいのが、衛士と防人である。彼らは成人男性(正丁) 3~4 人に 1 人の割合で徴集され、諸国の軍団で訓練を受けて衛士や防人として任地に派遣された。衛士とは、諸国の軍団の兵士から選ばれ、1 年間都の警備をする兵役である。防人はおもに東国の兵士から選ばれ、九州沿岸部の護衛にあたった。よって、リード文で「九州北部の防衛」とあることから、明示すべき名称は防人である。兵役に必要な武器や食料は自分で用意(自弁)しなければならず、任期中は家族の農作業なども手伝えないため、徴兵は庶民にとって重い負担であった。

その後、農民の浮浪・逃亡などによって制度の維持が困難になったため、792 年に軍団は廃止され、健児の制が採用されたことも覚えておきたい。

以上をまとめて解答しよう。

## 問 4 難易度：★★★★☆

## 解答例

九州の武士団が動員された。(13 字)

## 設問の要求

字数 14.5cm×1 行

主題 藤原隆家に率いられた軍事力の動員先

## 解説

下線部④について、刀伊とよばれた武装集団が九州北部を襲撃したのは**刀伊の入寇**である。この時の軍事動員について問われている。

この時、刀伊の襲撃から九州北部を守ったのは大宰権帥の**藤原隆家**(979～1044)であり、彼に率いられ戦ったのは**九州の武士たち**である。

11 世紀に入ると、荘園の**開発領主**たちは保護を求めて貴族に軍事奉仕し、地方の武士団へと成長していった。藤原隆家に動員されたのも**九州の武士団**だと考えられ、こうした状況は、貴族に接近した武士たちが次第に力を持ち、権力を掌握していく時代の流れを示唆している。

以上をまとめて解答しよう。

## B

## 問 5 難易度：★★★★☆

## 解答例

鎌倉時代後期から、惣領制の解体により、分割相続から嫡子の単独相続へ変化していった。その結果、各地で武士団内の対立が生まれ、南北朝動乱に際して南朝側・北朝側に分かれて争ったため、動乱が全国化・長期化した。(101 字)

## 設問の要求

字数 14.5cm×3 行

主題 下線部⑤の「諸国擾乱」が全国規模で長期化した理由

条件 守護権限にかかわる室町幕府法が出された時期に留意する

## 解説

「この法令」とは、下線部⑥や『建武以来追加』より**1352 年**の**観応の半済令**であり、ここにある「諸国擾乱」とは**南北朝の動乱**だとわかる。設問に「この法令が出された時期に留意して」とあることから、南朝と北朝の対立、さらには**1350 年**の**観応の擾乱**にみられる北朝内の対立、という当時の混乱を踏まえて解答する必要がある。

この動乱が全国化・長期化した背景には、**鎌倉時代後期からみられた惣領制の解体**がある。惣領制のもとでは、**宗家**(本家)の首長である惣領(家督)が**庶子**を従え、軍役や年貢を割り当てるとともに、**分割相続**により所領を分け与えていた。しかし、所領の細分化が進み、**嫡子が全所領を相続する単独相続が主流になると、一族の中で対立が生まれるようになった**。そこで、**各勢力は南朝・北朝の一方に味方して争うようになり**、南北朝動乱

が全国化・長期化していった。このような流れの中で、武家において血縁的結合よりも地縁的結合が重視されるようになった。

以上の内容をまとめて解答しよう。

## 問 6 難易度：★★★★☆

### 解答例

#### (法) 半済令

(影響) 1 国内の荘園・公領の半分の年貢徴収を認められた守護は、この権限を用いて荘園・公領を侵略し、国内の武士に分配して彼らを統制するようになった。(69 字)

### 設問の要求

字数 14.5cm×2 行

主題 下線部⑥の法が守護の権限拡大に与えた影響

条件 下線部⑥の法を一般に何と称するかを答える

### 解説

前問の解説のとおり、下線部⑥の「本所領半分事」や「半分においては」より、史料の室町幕府法は 1352 年の『建武以来追加』で出された観応の半済令である。一般にいう半済令とは、守護に、1 国内の荘園・公領の年貢の半分の徴収し、家臣に分け与える権利を認めたものである。初めは史料にあるとおり、近江・美濃・尾張の 3 国に限って施行されたが、やがて全国的に行われるようになり、年貢に加えて土地も分割されるようになった。

守護の権限は、鎌倉時代は大犯三箇条のみであったが、室町時代には刈田狼藉の取締権と使節遵行が加わり、さらに半済が認められた。このような権限の拡大に伴い、守護は国内の荘園や公領を侵略し、それを武士に分配して家臣団に組み入れていった。また、荘園や公領の領主が年貢徴収を守護に一任する守護請も行われるようになると、国衙機能をも吸収して地域全体を支配する守護も現れた。こうした室町時代の守護を守護大名とよぶこともある。

以上をまとめて解答しよう。

ちなみに、守護に被官化された武士の中には国人もおり、国人には、この問題で問われているような①守護に奉仕するものと、問 7 で問われているような②守護に抵抗するものとの 2 タイプがいたことも覚えておきたい。

## 問 7 難易度：★★★★☆

### 解答例

国人とよばれる地域在住の武士は、国人一揆を結んで紛争の相互解決や農民支配を自主的に行い、しばしば守護支配に抵抗した。(58 字)

### 設問の要求

字数 14.5cm×2 行

主題 守護権力の拡大に対し、地方在住の武士による別の権力形成の動向

### 解説

守護権力と併存した武士勢力の権力形成について問われている。

守護が権力を拡大する一方、地頭などの領主は国人とよばれ、守護に被官化されずに自立した地域支配を行った。彼らは国人一揆を結び、紛争を自主解決したり農民支配を行ったりした。こうして自立的な集団を形成した国人たちの中には、守護の支配に抵抗する者もいた。

以上をまとめて解答しよう。

問 8 難易度：★★★★☆

解答例

(直轄軍) 奉公衆

(役割) 諸国に散在する御料所の管理を行うとともに、守護の動きを監視した。(32 字)

設問の要求

字数 14.5cm×1 行

主題 将軍直轄軍の室町幕府における役割

条件 将軍直轄軍の名称を答える

地方支配との関係で述べる

解説

室町将軍の直轄軍は奉公衆<sup>ほうこうしゅう</sup>である。この役割を地域支配との関係から問われている。

奉公衆は、足利氏の有力家臣と守護一族、有力な地方武士などから構成された。おもな仕事内容は京都での将軍の護衛であったが、各地の将軍直轄領である御料所<sup>ごりょうしょ</sup>の管理も行った。奉公衆が諸国に散在する御料所を管理することは、地方の守護を監視することにもつながり、京都にいる将軍が奉公衆を通じて地方支配を強化しようとしていたといえる。

以上の地方支配に関連する部分をまとめて解答しよう。

(下谷佳楠, 金子智実)

# 2015年度 名古屋大学 前期 日本史

## 問題II 百姓の位置づけ・近世・近代の外交

出題範囲	近世～近代の文化・社会史
難易度	★★★★☆
所要時間	25分
傾向と対策	第2問は、5つの史料文をもとにして近世～近代の文化・社会について問う問題であった。問1は地図の読み取りが必要な点が珍しく、問2・問3の論述問題は細かい設問の要求に応えながら解答を組み立てるのが難しい設問であった。問4は文化史の基本的な問題であり、確実に得点しておきたい。

### 《この解説の使い方》

**黒太字** …この試験で合格点を取るために必要な頻出語句を黒太字で記載した

**赤字** …解答に関連する語句・内容および知識としておさえておきたい内容を赤字で記載した

**青字** …この試験で合格点を取るためにおさえておきたい年号を青字で記載した

### 解答

問1  う

(歴史的構造物) 大仙陵古墳 (別解: 仁徳天皇陵古墳)

問2 Aを前後する時期には、堺は日明貿易や南蛮貿易で繁栄したが、Eを前後する時期には、横浜・長崎・神戸などの開港地が欧米との貿易で栄えた。(66字)

問3 BとDの時期には、豊臣政権、江戸幕府という統一権力が生まれ、朝鮮出兵で悪化した朝鮮との関係も家康によって回復した。こうして局地的な平和ではなく全国的な平和が実現し、兵農分離が徹底されて、百姓は農業に専念し年貢を納める存在となった。(115字)

問4  歴史  森鷗外  日露  自然  田山花袋

問1 難易度:★★★★☆

### 解答

う

(歴史的構造物) 大仙陵古墳 (別解: 仁徳天皇陵古墳)

### 解説

空欄  には堺が入る。史料Aはポルトガルの宣教師ガスパル＝ヴィレラ(1525～72)の『<sup>やそかいし</sup>耶蘇会士日本通

信』であり、自治都市として繁栄する堺の様子を描いたものとして有名である。この史料を見て、空欄アに入るのは堺だとすぐに判断してほしい。そのほかにも問2の問題文から、この都市は1560年前後に「対外交易に欠かせぬ重要な都市であった」ことがわかり、これも参考にすることができる。

ここで解答すべきは堺の場所と、近接する歴史的構造物である。堺の場所については、かなり近接した3つの場所のうちから選ばせていることから、地図中にヒントがあると考えられる。そこで地図をよく見てみると、**選択肢うの市街地の南東に前方後円墳がいくつかある**ことに気づく。ここで、日本最大の古墳である大仙陵古墳は、大阪府堺市の<sup>も</sup>舌<sup>ず</sup>鳥古墳群に含まれることを想起できれば、堺は**選択肢う**の都市であることがわかる。なお、選択肢あは尼崎、大きな市街地と城郭の見える選択肢いは大阪である。堺に近接する歴史的構造物は、先に述べたように**大仙陵古墳（仁徳天皇陵古墳）**である。

## 問2 難易度：★★★★☆

### 解答例

Aを前後する時期には、堺は日明貿易や南蛮貿易で繁栄したが、Eを前後する時期には、横浜・長崎・神戸などの開港地が欧米との貿易で栄えた。(66字)

### 設問の要求

字数 14.5cm×2行

主題 堺がAの時期に対外交易に欠かせぬ重要な都市であったが、Eの時期の対外交易は堺以外の各地で活発化した、という状況

条件 具体例を挙げる

### 解説

問題文より、Aは**1560年頃**、Eは**1870年頃**の史料である。この2つの時期の対外交易の状況について具体例を挙げながら説明する。

Aは、問1でみたように、ポルトガルの宣教師ガスパル＝ヴィレラの書簡である。この時期、ポルトガル人やスペイン人との**南蛮貿易**が行われ、**堺は南蛮貿易の拠点として栄えた**。次に、もう少し前の時期の堺の状況を考えてみると、**博多とともに日明貿易の拠点として栄えた**ことが思い当たる。

Eは、1868年の堺事件を題材とした小説の一節である。堺事件は、乱暴を働いたフランス水兵を土佐藩兵が殺傷した事件であるが、この知識はもちろんもってなくてもよい。この時期の対外交易は、**幕末に結ばれた条約によって開かれた港で、欧米を相手に行うものがおもであった**。貿易額は**横浜**が圧倒的に多く、そのほかには**長崎**、**神戸**などで活発に貿易が行われた。

以上をまとめて解答を作成するが、問題文の「具体例を挙げながら簡潔に」という指示に戸惑った受験生も多いのではないだろうか。この問題において、何が「具体例」に当たるかを判断するのは難しい。しかし、解答において、Aを前後する時期の説明には「日明貿易」、「南蛮貿易」という用語が、Eを前後する時期の説明には「横浜」、「長崎」、「神戸」という地名が含まれることになるため、これを「具体例」と捉えてよいだろう。



## 問3 難易度：★★★★★

## 解答例

B と D の時期には、豊臣政権、江戸幕府という統一権力が生まれ、朝鮮出兵で悪化した朝鮮との関係も家康によって回復した。こうして局地的な平和ではなく全国的な平和が実現し、兵農分離が徹底されて、百姓は農業に専念し年貢を納める存在となった。(115 字)

## 設問の要求

字数 14.5cm×3 行

主題 B と D の時期に平和が到来した国内的・国際的経緯

新たに到来した平和が百姓の歴史的立場づけに与えた変化

条件 C を参照する

B と D の時期の平和が A の文中に見える平和とは意味が異なることに留意する

## 解説

設問の要求が多いため、1 つずつ要求に答えていけば解答を作成できる。

B は 1588 年に豊臣秀吉(1537～98)が出した刀狩令の一節、D は徳川幕府が 1649 年に出したとされる慶安の触書ふれがきの一節である。B は文章をみて刀狩令だと判断してほしいが、D は慶安の触書であるとわかる必要はない。史料が年代順に並んでおり、C は家康の時期、E は幕末から明治にかけての時期であるから、D は江戸時代の史料であるとわかる。

まず、B と D の時期に平和が到来した国内的・国際的経緯について考える。国内的には豊臣政権、江戸幕府が全国を統一したことで、安定した政治状況となった。国際的には、C が朝鮮使節と家康の対面の場面であることに留意すると、秀吉の朝鮮出兵によって悪化した朝鮮との関係が家康によって回復し、鎖国体制が確立したことで対外関係が安定したといえることができる。鎖国体制の確立は解答欄に余裕があれば含めたいが、「C をも参照しながら」という条件から、朝鮮についてふれるのみでも構わないだろう。なお、C の文章中の日本人が朝鮮人になりすました、という部分が気になった人もいるかもしれないが、この問題では解答に結びつける必要はないだろう。

次に、B と D の時期の平和と、A の文中に見える平和の違いについて考える。先に見たように、B と D の時期の平和は、統一政権が成立したことによる全国的な平和である。一方、A の文中に見える堺の平和は、富裕な商工業者が自治組織をつくり、町を堀で囲んで防御することによって実現した局地的な平和である。

上の内容を頭にとどめながら、新たに到来した平和が百姓の歴史的立場づけに与えた変化について考えていく。中世の百姓は武器をもつ者が多く、一揆を結んで支配者に対抗することがあったが、秀吉は刀狩によって百姓の武器を没収し、一揆の防止を図った。そして史料 B に「百姓は農具さへもち、耕作もっぱらに仕り候へば」とあるように、百姓を農業に専念すべき存在と位置づけ兵農分離を進めた。また、検地によって、百姓に土地所有権を認める代わりに年貢納入の義務を負わせた。つまり、兵農分離によって、百姓は「農業に専念し、年貢を納入すべき存在」と位置づけられたのである。先に述べた、新たに到来した全国的な平和は、兵農分離政策を全国的に施行することを可能にしたといえる。

以上の内容から解答を作成する。まとまりのある解答を作成することは難しい問題だが、設問の要求にしっかりと答えることを一番に意識して解答を組み立ててほしい。

#### 問4 難易度：★★★★☆

解答

イ 歴史   ウ 森鷗外   エ 日露   オ 自然   カ 田山花袋

解説

Cは朝鮮通信使を、Eは堺事件を題材に書かれた小説であることから、空欄  には歴史が入るのではないかと推測される。これを説明文中にもう一度登場する空欄  に当てはめると、「C・Eのほかにも『山椒大夫』『阿部一族』など歴史に題材を求めつつ・・・」となり適当であるとわかる。

空欄  は1つ目の空欄から答えを導くことは難しいが、2つ目の空欄で『山椒大夫』『阿部一族』などを著した人物だとわかる。よって、空欄  には森鷗外おうがい(1862～1922)が入る。

空欄  ・  について、現実をありのままに描こうとする文学潮流は自然主義であり、日露戦争前後に始まった。「〇〇主義」という名前の文学潮流にはほかに、感情・個性の躍動を重視するロマン主義がある。

空欄  には『蒲団』の作者、田山花袋かたい(1871～1930)が入る。

(金子智実, 浦地智暉)

# 2015年度 名古屋大学 前期 日本史

## 問題III 史料から読み取る近現代の政治や社会

出題範囲	近現代の政治・外交史
難易度	★★★☆☆
所要時間	35分
傾向と対策	第3問は、3人の首相経験者のプロフィールを通して、近現代の政治と対外関係について問う問題であった。どの問題も日本史における標準的な問題が続いた。問1は標準的な難易度ではあるが、政党の名称は混同しやすいので、これを機にしっかりと区別して覚えておこう。また、問4のように、有名な資料から歴史的な思考力を試される問題も出題されているので、教科書に沿った学習をしつつも、自らの力で歴史事象に対する認識を理解できるように日々図版などにも慣れ親しんでおこう。

### 《この解説の使い方》

**黒太字** …この試験で合格点を取るために必要な頻出語句を黒太字で記載した

**赤字** …解答に関連する語句・内容および知識としておさえておきたい内容を赤字で記載した

**青字** …この試験で合格点を取るためにおさえておきたい年号を青字で記載した

### 解答

問1 A: 吉田茂 B: 片山哲 C: 石橋湛山

あ 日本自由党  い 日本社会党  う 日本民主党

問2 (事件名) 張作霖爆殺事件

(政治的影響) 日本では、田中義一が天皇の不興を買い内閣は総辞職し、中国では張学良が国民政府に合流した。(44字)

問3 自由主義陣営である西側諸国との単独講和によって独立を回復する政策をとった。また、日米安保条約を結びアメリカ軍の駐留を認め、国内の安全保障をアメリカに託した。(78字)

問4 兵の復員・引揚げで人口が増え、失業者数も増えた。食糧不足は深刻を極め、配給も十分に行われなかったため、農村への食糧の買出しや、闇市が盛んになった。(73字)

問5 (ア)日清戦争で台湾や澎湖諸島を、日露戦争で中国大陸の諸権益を手に入れた。のちに、韓国併合によって朝鮮半島を植民地とした。第一次世界大戦で山東省の旧ドイツ権益を手に入れ、それはベルサイユ条約で継承が認められた。(102字)

(イ)日本では、米騒動が起き、民衆は政治参加の拡大を求める運動を起こした。中国では反日国民運動である五・四運動が起き、朝鮮では独立を求める三・一独立運動が起きた。(78字)

問 6 前者は、25 歳以上の男子にのみ選挙権が与えられる選挙であったが、後者は 20 歳以上の男女に選挙権が与えられた選挙であった。(58 字)

問 7 中国国内では、国民党と共産党が提携を行い、抗日民族統一戦線が成立した。日本は南京を占領するも、中国は抗戦を続け、戦闘は長期に及んだ。政府は、第一次近衛声明によって国民政府との和平の可能性を断ち切り、汪兆銘に親日の傀儡政権を樹立させた。(117 字)

### 問 1 難易度：★★★★☆

#### 解答

A：吉田茂 B：片山哲 C：石橋湛山

あ 日本自由党  い 日本社会党  う 日本民主党

#### 解説

A サンフランシスコ講和会議の全権というフレーズで吉田茂(1878～1967)とわかる。ほかには、<sup>ひがしくにのみやして</sup>東久邇宮・幣原内閣ののちに首相になったという文言からも答えを導き出すことができる。吉田茂は、**日本自由党**の総裁に就任した人物である。日本自由党は、1946 年に行われた戦後初の総選挙で第 1 党となった党であり、総裁になった吉田茂が内閣を組織した。

B A のあとを受けて内閣を組織したという文章から、**片山哲**(1887～1978)だとわかる。第 1 次吉田内閣(1946～57)のあとは、第 2 党になった日本自由党に代わり、**日本社会党**が衆議院の第 1 党になった。日本社会党の委員長であった片山哲は民主党と国民協同党との連立内閣を組織した。しかし、連立内閣だったため、積極的な政策を展開できないまま政策調整に苦しみ、わずか 9 カ月で総辞職に追い込まれた。

C 「小日本主義」の主張を展開したという部分で、**石橋湛山**<sup>たんざん</sup>(1884～1973)とわかる。彼は**日本民主党**の結成に参加し、その後自由民主党の総裁に就任し内閣を組織した。

### 問 2 難易度：★★★★☆

#### 解答例

(事件名) 張作霖爆殺事件

(政治的影響) 日本では、田中義一が天皇の不興を買い内閣は総辞職し、中国では張学良が国民政府に合流した。

(44 字)

#### 設問の要求

字数 14.5cm×1 行

主題 田中義一内閣のとき奉天で起きた事件が日本国内と中国に及ぼした政治的影響

条件 田中義一内閣のとき奉天で起きた事件の名称を答える

#### 解説

田中義一内閣(1927～29)のとき奉天で起きた事件とは**張作霖爆殺事件**<sup>ちやうさくりん</sup>である。これは、関東軍の張作霖(1875～1928)を排除し満州を占領するもくろみが背景になって引き起こされた、奉天郊外で張作霖が乗っていた列車

を河本大作(1883～1955)大佐らが爆破した事件である。この事件が及ぼした日本国内と中国への政治的影響を考えていく。

まず、国内の政治的影響について述べる。張作霖爆殺事件は、当時満州某重大事件とよばれ、真相が国民に知らされることはなかった。事件の処理において当時の首相田中義一(1864～1929)は天皇の不興を買い、内閣は総辞職に追い込まれた。

次に、中国における政治的影響について述べる。関東軍のもくろみはずれ、張作霖の息子である張学良(1901～2001)は蔣介石(1887～1975)率いる国民政府に合流し、満州全域に晴天白日旗が掲げられた。ここに北伐は完了し、中国全土の統一がほぼ達成された。

以上をまとめて解答しよう。

### 問3 難易度：★★★★☆

#### 解答例

自由主義陣営である西側諸国との単独講和によって独立を回復する政策をとった。また、日米安保条約を結びアメリカ軍の駐留を認め、国内の安全保障をアメリカに託した。(78字)

#### 設問の要求

字数 14.5cm×2行

主題 サンフランシスコ講和条約締結当時の日本政府の外交政策

条件 サンフランシスコ講和条約の第6条の規定の「但し」以下の文章が外交政策にかかわっていることを参考に  
にする

#### 解説

問題文より、「但し」以下の文章が当時の外交政策にかかわっている。注目すべき点は、「又はその結果としての外国軍隊の日本国の領域における駐とん又は駐留を妨げるものではない。」という1文である。共産主義陣営と自由主義陣営が展開する冷戦体制の形成が進む中、日本はほぼ不可能な全面講和(日本が交戦したすべての国と平和条約を締結すること)を諦め、西側陣営だけとの単独講和(片面講和)を優先させ、独立を回復することを目指した。そして再軍備による負担を避け、経済的復興を進めるために基地や施設を「外国軍隊」、つまり、アメリカ軍に提供することで戦後の安全保障をアメリカに委任する道を選択した。サンフランシスコ講和条約締結と同日に日米安全保障条約が調印され、アメリカ軍の駐留を認めた。

以上をまとめて解答しよう。

### 問4 難易度：★★★★☆

#### 解答例

兵の復員・引揚げで人口が増え、失業者数も増えた。食糧不足は深刻を極め、配給も十分に行われなかったため、農村への食糧の買出しや、闇市が盛んになった。(73字)

#### 設問の要求

字数 14.5cm×2行

**主題** 日本および日本国民がおかれていた状況

**条件** 太平洋戦争敗戦時

図 1～3 を参照にする

**解説**

まず、それぞれの図に関して考察しよう。図 1 は日本列島外にいた人々の引揚げを報じる新聞記事である。図 2 は教科書に載っているほど有名であり、1 度は見たことがある写真だと思われる。買出し列車に乗り、農村などへ向かう人々を写した写真である。図 3 は新橋駅前の様子であり、闇市があったため、このように人々が殺到していた。

それぞれの図から、キーワードや構成要素が引き出せる。終戦直後は経済の荒廃が進んでおり、住む場所にも苦勞し生活がままならない状態であった。そんな状況の中、**軍人の復員や一般人の引揚げが進んだ**。加えて、軍需などに依存してきた経済が徹底的に破壊されている情勢を受けて、**失業者数は急増した**。また、**記録的な凶作も相まって、食糧不足は深刻化した**。配給の量も少なく、遅くなることや欠けることも続いたのである。そのため、**人々は非合法の食糧を手に入れるため農村へ買出しに出掛けた**。また、**各地に闇市が生まれ闇買いに殺到した**。闇市における諸品目の値段は基準価格の 100 倍を超えることもあった。ここにみられるインフレーションに対する政府の対応も余力があればおさえておこう。

**問 5 難易度：★★★★☆**

(ア)

**解答例**

日清戦争で台湾や澎湖諸島を、日露戦争で中国大陸の諸権益を手に入れた。のちに、韓国併合によって朝鮮半島を植民地とした。第一次世界大戦で山東省の旧ドイツ権益を手に入れ、それはベルサイユ条約で継承が認められた。(102 字)

**設問の要求**

**字数** 14.5cm×3 行

**主題** C の人物の社説「一切を棄つるの覚悟」の一節で触れられた日本のアジアでの権益の獲得の経過

**解説**

史料にほぼ答えが記されている。史料には、満州・山東・支那・朝鮮・台湾など日本が獲得した領地や権益が存在する場所がみられる。これを獲得した順に並び替え、まとめればいい。日清戦争の講和条約である**下関条約**で**台湾・澎湖諸島を手に入れ**、日露戦争の講和条約である**ポーツマス条約**で**南満州の鉄道利権を手に入れた**。その後、**1910 年の韓国併合で朝鮮を植民地化した**。第一次世界大戦ではドイツが租借していた**山東省を日本軍が占領し**、**のち日本は山東省のベルサイユ条約において旧ドイツ権益を継承した**。

以上をまとめて解答しよう。

(イ)

**解答例**

日本では、米騒動が起き、民衆は政治参加の拡大を求める運動を起こした。中国では反日国民運動である五・四運動が起き、朝鮮では独立を求める三・一独立運動が起きた。(78 字)

**設問の要求**

字数 14.5cm×2 行

主題 日本およびアジアにおける民衆の政治的動向

条件 C の人物がこの社説を書いた背景には、第一次世界大戦後の日本やアジアの民衆の政治的動向があったことを参考にする

**解説**

社説の背景にある、日本とアジアの社会的動機について説明しよう。第一次世界大戦では、「総力戦」といわれたように、人々は戦争の遂行に協力させられた。そのような世相の中、「民族自決」の国際世論が次第に高まってきた。このような世論を背景に、植民地支配を受けていた朝鮮では 1919 年に三・一独立運動が朝鮮全土に広がった。中国では、パリ講和会議で対華二十一か条要求が撤回されなかったことから、五・四運動が広がった。また、同時に日貨排斥運動も展開された。一方、日本では米騒動やロシア革命をきっかけに、普選運動をはじめ、労働運動や政治参加の拡大を求める民衆の運動が盛んになった。

以上をまとめて解答しよう。

**問 6 難易度：★★★★☆****解答例**

前者は、25 歳以上の男子にのみ選挙権が与えられる選挙であったが、後者は 20 歳以上の男女に選挙権が与えられた選挙であった。(58 字)

**設問の要求**

字数 14.5cm×2 行

主題 B の人物が衆議院議員総選挙に初当選したときの選挙制度と、C の人物が初めて臨んだ総選挙の選挙制度の相違点

**解説**

まず、片山哲が初当選したときの選挙は 1930 年に行われている。この選挙は、1925 年に施行された普通選挙法をもとにして行われた。この当時は、選挙権は 25 歳以上の男子にしか与えられなかった。しかし、終戦後、女性参政権を初めて認めた新選挙法が制定され、満 20 歳以上の成人男女に選挙権が与えられた。その選挙法にもとづく最初の選挙は 1946 年に行われ、39 人の女性代議士が誕生した。

## 問7 難易度：★★★★☆

## 解答例

中国国内では、国民党と共産党が提携を行い、抗日民族統一戦線が成立した。日本は南京を占領するも、中国は抗戦を続け、戦闘は長期に及んだ。政府は、第一次近衛声明によって国民政府との和平の可能性を断ち切り、汪兆銘に親日の傀儡政権を樹立させた。(117字)

## 設問の要求

字数 14.5cm×3行

主題 日中間の戦闘が激化する中で、日本政府がとった外交政策

条件 盧溝橋事件後

中国国内の動向にも言及する

## 解説

1937年7月7日、北京郊外の盧溝橋で日中両国の軍が衝突した。一旦は現地で停戦協定が成立し、トラウトマン和平工作をはじめとするいくつかの和平交渉が行われるも、第1次近衛文麿内閣(1937～39)が軍部の圧力により不拡大方針を放棄すると、戦線は拡大した。盧溝橋事件は、日中戦争の引き金となった。その後の日本政府のとった政策について、日中戦争の展開を意識しながら考えよう。

1937年9月、第二次国共合作<sup>こっきょうがっさく</sup>が宣言されて共産党の軍隊は国民政府の軍隊に再編成され、抗日民族統一戦線が成立した。その後日本軍は首都南京を占領するも、中国政府は漢口<sup>かんこう</sup>へ、さらには重慶<sup>じゅうけい</sup>へ首都を移し徹底抗戦を続けた。1938年には、第一次近衛声明（「帝国政府は爾後<sup>じご</sup>国民政府<sup>あいて</sup>を対手とせず」）を出すことで、近衛内閣は自ら和平の機会を狭めた。同年の第二次近衛声明では東亜新秩序の建設を戦争の目的だと明示した。続く第三次近衛声明では善隣友好・共同防共・経済提携の近衛三原則の方針を示した。そのような状況の中、親日政権樹立のため、国民政府の要人汪兆銘<sup>おうちようめい</sup>(1883～1944)をひそかに重慶から脱出させた。汪兆銘は1940年に新国民政府を樹立したものの、汪政権は弱体で日本の戦争終結の政略は失敗した。蒋介石の重慶政府に対しては米英の支援が続き、こうして日中戦争は長期化した。

以上をまとめて解答しよう。

(久米光仁、浦地智暉)